

第1回懇談会で提案した検討事項に対する取りまとめ

【検討事項1】

生物多様性保全に配慮した遊歩道整備の内容

（課題）

- 人力により危険木を処理することが出来ない箇所については重機によって処理しなければならないが、重機が通行できる管理道がないため、生態系に配慮した仮設道等の作設方法を検討する必要がある。
- 一部遊歩道に敷設されている木道、木製階段、案内標識等が腐食しており、補修又は新設する必要がある。

（意見等）

- 遊歩道が設置されている箇所は、比較的なだらかな斜面が続いているので、かかり木などが新たに発生した場合は、刈り払い機などで草を刈って迂回路を作るという方法を検討してはどうか。
- 路線図については、路線の通過時間が分かるものがないので、是非設置してほしい。

（結論）

- 本年度CFで実施する内容は、積雪時に地表を乱さないよう、重機（大型林業機械）で道道又は林道から雪を締固めながら林内に進入してかかり木を処理する。
- 来年度以降発生するかかり木等の処理については、一時的な対応としては迂回路を整備し、危険箇所を回避し通行させるのも1つの方法である。なお、本格的な補修が必要な場合は、予算の確保について検討する必要がある。
- CFにおいて各遊歩道の所要時間等と路線図を示した案内板、遊歩道入口に誘導標識、一部沢渡りが必要な箇所へ木製丸太橋等を整備する。

【検討事項2】

多様な自然環境に係る魅力を体験するツアーの内容

（課題）

- 生物多様性に配慮しながら来訪者にチミケップ湖周辺の自然の魅力を十分に知ってもらうような、体験ツアーを実施する必要がある。
- 道職員だけではなく地域の自然に詳しい専門家の協力や民間企業が実施する観光商品との連携などについて検討する必要がある。

（意見等）

- （減税措置のある）ふるさと納税と絡ませて実施してはどうか。
- 観光利用するのであれば、何処をどういうふうにするかのローカルルール作りも絶対に必要となる。
- 地元の観光協会と合同のツアーをすることも一つのやり方である。
- 持続していくには、黒字にならないければ継続できないが、入り込み者が増加することでチミケップ湖の良さを失わせることにならないか心配。

（結論）

- CFでは10万円の寄附者に対し、春（野鳥と花の観察会）、秋（満点の星空観察会）、冬（極寒の歩くスキー）の体験ツアーの参加権を返礼品として提示し、ふるさと納税と絡ませ実施中。

なお、体験ツアーについては、道職員（東部森林室）が中心となり、地元の自然に詳しい専門家の方々の協力を得ながら、津別町や観光協会の支援もいただいて実施する。

【検討事項3】

生物多様性保全に配慮した観光利用のあり方

(課題)

- CFなどにより地域の良さが広く認められることにより、予想以上に来訪者が増加した場合には、生物多様性や原生林の静けさなどのメリットが損なわれる可能性がある。
- 整備した遊歩道を利用した長期的なエリアの活用方法について、地域関係者の合意のもとで方向性を決めていく必要がある。

(意見等)

- チミケップ湖みたいに針広混交林で野鳥も繁殖し、豊かな生態系が広がっている場所は余りない。今後の方向性が大事。
- チミケップ湖エリアの今後の活用については、「チミケップをどうするのか、皆で考えよう」という目的の会議を別に立ち上げ、役場と道が中心となり民間を巻き込んで共通の方向性やコンセプトを決めるべき。
- CFで遊歩道をどう直すかという話の中から、(今後のチミケップをどうすべきか)多くの課題がこの懇談会から出たことで、非常に建設的な会議になった。
- 今回の懇談会は、CFについては内容を確認するが、今後のあり方については、検討すべき課題を提言するまでに止めるのが落としどころである。

(結論)

- チミケップ湖とその周辺の自然環境の保全と活用については、道や地元にとっても大きな課題であり、この懇談会での意見を踏まえ、改めて道と津別町が方向性を協議する場を設けるよう検討する。

【検討事項4】

保全経費の確保など継続的に利用できる仕組み

(課題)

- 今年度実施するクラウドファンディング（寄付型）では、ある程度のまとまった予算の確保が期待できるとともに、広報活動を通じて寄付者を含めて来訪者が増加し地域の活性化に繋がる事が期待できる一方で、継続的に実施していく場合には寄付者が多い年度と少ない年度とがあり安定した予算額の確保が難しい。

(結論)

- 今回は、道によるクラウドファンディングでの取組であるが、今後は、限られた道予算での執行のほか、安定的な財源確保の取り組みについても検討する必要がある。